

社会貢献活動  
地域とともに

# 2018 専修大学カップ

## いずみ少年野球クラブ 初優勝

優勝し笑顔のいずみ少年野球クラブ



54チームが熱戦

スポーツを通じて神奈川県内の子どもの健全育成を支援する「2018 専修大学カップ 神奈川県学童軟式野球選手権大会」(神奈川県野球連盟主催)が8月3日から10日まで、境川遊水地公園(横浜市磯子区)などで開催され、県内各地の代表54チームが熱戦を繰り広げた。初出場のいずみ少年野球クラブ(横浜市泉区代表)が初優勝を遂げた。

台風の影響で10日に順延された決勝戦は、バッティングパレス相石スタジアムひらつか(平塚市)で行われ、いずみ少年野球クラブが南瀬谷ライオンズ(横浜市泉区代表)を5対2で破った。いずみ少年野球クラブの吉田信介監督は「一点生は優勝を目標にしていた。本当はもう少し点を取っていたらいいな」と喜びを語った。



準優勝の南瀬谷ライオンズ

いずみ少年野球クラブ	1	1	0	0	0	3	0	5
南瀬谷ライオンズ	0	0	0	0	0	2	0	2

決勝戦



佐々木大会会長から記念メダルが授与された

熱戦の記録



### 野球の楽しさ味わう

2010年出場 準硬式野球部・山本さん

この大会で専大の名を知り、専大を志望した山本さん。「今の小学生も、専大カップで野球の楽しさを味わっていると思うといい」と話す。小中高とキャプテンを務め、「野球を続けてきたことで、勉強も生活も諦めずにやる粘り強さが身についた。準硬式野球部ではチームに貢献できるような頑張りたい」と語り、「将来の夢は野球の指導者」と目撃した顔をほころばせた。

優秀選手賞は、いずみ少年野球クラブの小林大地選手(6年生)が、敢闘賞には南瀬谷ライオンズの渡邊憲信選手(6年生)がそれぞれ選ばれ、県野球連盟から表彰された。

佐々木大会会長は「守備力の高いチーム同士の非常に引き締まった決勝戦でした。この大会を通じて得たうれしさ、悔しさ、喜びは皆さんの将来に大きな力となることでしょう」とあいさつし、大会関係者や各チームの指導者、ご父母・保護者に謝意を述べた。

開会式、閉会式の司会には本学就職部主催アナウンサー講座の岡田瑠美さん(文2)が務めた。



大勢の高校生や保護者が訪れ大学生活について理解を深めた=8月4日

### オープンキャンパス 専大の学び伝える

模擬授業や個別相談を開催

高校生を対象に、専修大学の魅力を伝えるオープンキャンパスが8月4、5、25、26日、生田キャンパスで開催された。模擬授業や個別相談、大学生によるキャンパスツアーなどがあり、大勢の高校生や保護者が、興味のある学部について理解を深めた。



経営学部ビジネスデザイン学科の模擬授業を行う三宅秀道准教授(8月4日)

文学部ジャーナリズム学科の説明会(8月4日)

ヤマト福祉財団 18年度奨学生 有吉さん(商3) 2018年度のヤマト福祉財団奨学生に、有吉愛知さん(商3)が選ばれ、7月18日、生田キャンパスで奨学生証が授与された。

### 一万時間の法則



「一万時間の法則」とは、何事でも一流となるには一万時間の鍛錬が必要であるというものです。ここで、野球のイチロー選手について考えてみましょう。イチロー選手は、屈指の成績を残していますが、野球の天才でしょうか? イチロー選手に関する資料を読むと、現在のイチロー選手があるのは、天賦の才能というよりは、児童期から現在に至るまでの日々の練習の積み重ねによるところが大きいことが分かります。つまり、イチロー選手は、一日7時間の鍛錬で約1万時間になります。とはいえ、特定分野の鍛錬に一日7時間もあてるのはかなり難しいのが現実かと思えます。一日あたり2時間を、自分を磨く時間にあてるとすると約3000時間の鍛錬になります。一日2時間では1万時間の3分の1にしかならないのです。こう考えると、4年間という期間は長いようで短いと言わざるを得ません。大学の4年間は、自分を磨くための時間を比較的容易に確保できる最後のチャンスです。日々、限られた時間を有効に使いたいですね。(学生部委員・矢野貴之)